図画工作科学習指導案

日　時　令和８年１月 29 日（木）
　　第５校時 13:35～14:35
学校名
対　象　第３学年　組　　名
会　場
授業者

１　題材名　「つながる　アミアミ　いい感じ！」

Ａ表現(1)ア(2)ア、Ｂ鑑賞(1)ア、共通事項(1)ア、イ

２　題材の目標

(1)　「知識及び技能」に関する目標

・　自分の感覚や行為を通して、緩衝材（紙）に触れながら、身近な場所につなげてできる形や色などの感じが分かる。

・　材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、緩衝材の形を変えたり、つないだりして、手や体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。

(2)　「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

・　緩衝材に触れたり、つないだりして形を変えながら造形的な活動を思い付き、自分のイメージをもちながら、どのように場所を変化させる活動をするかについて考える。

・　自分たちの活動の造形的なよさや面白さ、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(3)　「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

・　進んで緩衝材に触れながら、場所につなげて変化させたり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　自分の感覚や行為を通して、緩衝材に触れながら、場所に、つなげてできる形や色などの感じが分かっている。 ②　材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を	①　緩衝材に触れたり、つないだりして形を変えながら造形的な活動を思い付き、自分のイメージをもちながら、どのように場所を変化させる活動をするかについて考えている。 ②　自分たちの活動の造形的	①　つくりだす喜びを味わい進んで緩衝材に触れながら､場所につなげて変化させたり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

生かし、緩衝材の形を変えたり、つないだりして、手や体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	なよさや面白さ、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	

4　指導観

(1)　題材観

本題材は、小学校学習指導要領(平成 29 年３月告示)　第２章　第７節　図画工作

第２　各学年の目標及び内容

〔第３学年及び第４学年〕　２　内容

A　表現

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験や生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。

B　鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。

イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

を受けて設定した。

本題材は網目状に切り込みの入った緩衝材に触れながら材料の特徴をつかみ、見付けた形を生かしながら身近な場所につなげて、自分なりの気に入った場所につくり変える造形遊びである。

緩衝材は一見すると普通のクラフト紙だが、切りこみに沿って伸ばすと網目状に広がる。本題材ではこの網目状に形が変化する紙を児童が廊下や階段の様々な場所につなげていくことで、形や感触の変化を味わいながら、見慣れた場所の見え方の変容を体験する。活動の過程でこれらの造形的なよさや面白さを捉えることで、新しい視点で物事を見ることにつながると考える。

児童が緩衝材の感触を味わいながら特徴を感じ取り、普段過ごしている場所に関わり、考え、工夫することを通して児童の発想や構想の能力を高めていくことをねらいとする。

(2)　児童観

第３学年の児童の多くは、図画工作科の授業に意欲的に取り組む。１学期に行った「ひもひもワールド」では、様々な色のスズランテープを結ぶことで部屋中に張りめぐらせ、図画工作室全体の様子を変える活動に取り組んだ。スズランテープを結ぶことに夢中になっていた反面で、工作的な活動をする様子も見られ、図画工作室の場所の特徴を生かした活動が深まらない児童もいた。

そこで、児童が材料に存分に触れることを通して、つくりたいものに対して思いをもち、深めていく経験を増やしたいと考えた。本題材では触ると網目の形が変化していく緩衝材に触れて、児童が身近な場所につなげながら、自分なりの気に入った場所につくり変える。児童が諸感覚を生かしながら、緩衝材に触れる、つくる、見るということを繰り返し、思いを深めることができるよう、指導者による言葉掛けを工夫していく。

(3)　教材観

ア　緩衝材は、主な用途として割れ物を梱包する際に使用するものであるが、紙製のためクシャッとした柔らかな感触があり、握った部分は縮んで形が歪み、触れていくうちに規則性のある網の形が変化する。この緩衝材の感触や視覚的な変化を児童が感じ取ることで、「この形の紙を、あの場所につなげてみたらどうなるか。」という思いをもつことができるようにする。児童が場所の変化を捉えられるようにするため、ある程度長めに切り、ロール状のもので用意しておき、新たにつなげる時に不足した場合は材料コーナーで必要な分をカットできるようにしておく。

イ　紙製のテープを用意し、緩衝材を貼る際に使用できるようにする。

ウ　紙紐は、あらかじめ高い位置に数本渡しておき、児童が緩衝材を貼って吊るす際に使用できるようにするなど場所に働きかけるようにするために使用する。

エ　安全面の配慮として、椅子の上に立つ際は椅子を横に倒し、板の貼られている面の上に立つことを指導する。移動時は、気を付けて歩くよう指導する。はさみは、所定の場所（紙紐、ロールから緩衝材をカットするコーナー）で使用するように指導する。

オ　材料置き場廊下に配置し、廊下や階段を通行する際に活動の様子を見て児童が材料の面白さに気付いたり、材料を取りに行ったりしながら友達の活動を鑑賞したりできるようにする。

カ　材料と用具

(ｱ)　授業者が用意するもの

緩衝材　（幅３０～４０㎝）、マスキングテープ（白）、紙紐、はさみ

５　年間指導計画における位置付け

	題材名	学習内容
第２学年	ぎゅっとしたいおともだち	くしゃくしゃにする紙の感触や形から表したいことを見付け、どのように表すかを考えながらつくる活動に取り組んだ。
第３学年	つながる　アミアミ　いい感じ！（本時）	緩衝材に触れながら材料の特徴をつかみ、身近な場所につなげて緩衝材の使い方を工夫しながら、造形的な活動を思い付き、廊下や階段の様子を変える活動に取り組む。
第４学年	わっかでワンダーランド	短冊状の画用紙を曲げたり、折ったりしてホチキスで止めて組み合わせながら、いつも使用している図画工作室の様子を変える活動に取り組む。
第５学年	ふわふわ紙で図工室大へんしん！	お花紙の特徴を生かしながらつなげ方を工夫し、いつも使用している図画工作室の様子を変える活動に取り組む。
第６学年	白の世界	場所の特徴を生かしながら白い材料を工夫して組み合わせ、いつも使用している図画工作室や廊下の様子を変える活動に取り組む。

６　指導に当たって

(1)　指導内容や方法、学習形態等について工夫したこと

本題材では、緩衝材に触れながら材料の特徴をつかみ、身近な場所につなげて自分なりの気に入った場所に変化させる活動内容を考えた。廊下や階段の壁面や棚、窓など様々な場所につなげる、見ることなどを繰り返し、「網目を握ってクシャッとしたアミアミを壁に棚に張ったら、面白い壁みたいになった。」「窓に貼っていったら、網目から外の光が見えてきれい。」というように、材料である緩衝材で廊下や階段といった見慣れた場所が変化していく過程を経て、児童が表したい思いを深めていくことをねらいとしている。

そのために、児童同士がつくる過程を見合い、互いの活動の良さや面白さを見付けられるように廊下に材料置き場を設置し、廊下や階段を通行する際に学級全体の活動の様子を鑑賞できるようにする。

(2)　授業力の６要素について

児童が「もっとこうしたい。」という思いを表す活動の追求を図る。授業のねらいの言葉を用いて学級全体で振り返り、思いを深める姿につなげられるようにする。導入時、児童が感触を味わいながら網目状に広がる紙の特徴を捉え、つなげてできた造形の面白さが分かるようにする。展開時はつなげたところを見たり触ったりしながら、緩衝材の形の変え方やつなげ方をどのように

工夫するか考えてつくり変えていく。児童がつくる活動と鑑賞を繰り返すことで、思考・判断・表現の育成につなげる。

(3)　班テーマ「児童が思わず動き出す授業を目指して～思いを深めるための手立ての工夫～」との関連について

導入時の「思わず」動き出す手立てとして、導入時、階段下の廊下に児童を集め、児童に一人一本ロール状の緩衝材を一斉に配付する。このとき、児童は受け取った紙を自分で床や空中で広げることで、切り込みが伸びて広がる網目状の緩衝材であることに気付く。材料に触れながら、学級全体で緩衝材を触った感触や生まれた形の変化について共有する時間を設定する。

また、学習環境づくりの工夫として、廊下や階段を活動場所に設定する。場所の高さや幅を生かし、導入時から壁面や空中を使う視点をもてるようにすることで、材料の特徴に気付きながら「この材料では、この場所でこんなことが出来そう。」という活動のイメージをもつことができるようにする。

さらに「思いを深める」ための手立てとして、つなげ方を工夫している児童のつぶやきや活動の様子を観察しながら、価値付けるような言葉掛けを行う。形が変わった緩衝材をつなげたことで身の回りの場所の見え方がどのように変わったのか、見たり触れたりした感じなどから造形の面白さを捉え、つくりかえる姿を見取る。授業のねらいに基づき、緩衝材を身近な場所につなぎ、自分なりの場所に変化させてできた形から感じたことや思い付いたことについて聞き取り、共感的な言葉を掛けることで、指導者が児童の工夫を認める。

７　本時（全１時間と１/３時間）

(1)　本時の目標　本題材は 60 分で実施するため、本時の目標は題材の目標となる。

(2)　本時の展開

時間	○ 学習内容　・ 学習活動	◇ 指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 ５ 分	① 本時のめあてをつかむ。 ・ ブラックボックスを使用して、代表の児童が材料の形や触り心地などの特徴を捉え、感想を学級全体に伝える。 ・ 西階段下のスペースに集まり、一人一本ロール状の緩衝材を手に取り、広げてみる。このとき、緩衝材を触った感触や生まれた形の変化について感じ取り、切り込みに沿って伸ばすと網目状に広がる紙の「いい感じ」な特徴を学級全体で共有する。 〔予想される児童の反応〕 C　紙がのびて網みたいになるんだ。 C　アミアミの紙を見る角度によっては少し凸凹があって、面白い模様みたいに見える。 ・使える材料として、教師が提示したテープを見て緩衝材をどんなところにつなげたら面白くなりそうか考える。 〔予想される児童の反応〕 C　壁から壁につないでみたい。 C　あの窓の近くに高いところから垂らしたらきれいだろうな。 ・ 題材名と本時のめあてを知る。	◇ 活動場所となる西階段・廊下が見渡せるように、西階段下に集合する。 ◇ ブラックボックスの中の材料を触った感触から紙を使用することを知り、どのような特徴をもつ紙であるかということに関心を高める。 ◇ 大きな箱に全員分の緩衝材（ロール状）を入れておき、児童はそこから自分たちの分の紙を取る。 ◇ 広げた緩衝材の網のようになる状態や、握ったり、ちぎったり、ねじったりすると形が変わるなど、紙の特徴のよさや面白さについて全体に共有することで活動への思いをもつことができるようにする。 ◇ 題材名と本時のめあてを確認する。	
展開 45	② 身近な場所につなげ方を工夫して活動する。 ・ 紙テープを使用し、緩衝材をつなげる。	◇ 安全管理として、椅子の上に立つ際は椅子を横に倒し、板の貼られている面の上に立	ア ①　○ （活動の様子の観察、対話、作品）

アミアミのよさを生かしていろいろな場所にはったりつなげたりしながら、「いい感じの場所」に変えよう。

分	〔予想される児童の反応〕 C　アミアミがちょっと破けちゃったけど、切れ目が広がって、面白い形のアミアミになったよ。どこかに使えないかな。 C　網目を握ってクシャッとしたアミアミを吊るしたら、面白い壁みたいになった。	つこと、教室内を走らないこと、周囲に気を付けて活動することを話す。 ◇　安全管理として、滑ることを防止するため、材料が外れて床に落ちていたら、自他のもの問わず貼って戻すように話す。 ◇　追加で紙やテープを使いたい場合は材料コーナーに取りに来ることを伝える。 ◇　机間指導で、児童の考えを認める言葉掛けを行う。「つなげた形のどのような感じが気に入ったか。」、「どのようなことをしようと考えているか。」「なぜその場所につなげようと考えたのか。」、「どんなところからそう考えたのか。」など児童の考えを聞く。 ◇　児童の活動している様子を見て言葉掛けを行いながら、表現の工夫を見取る。 ◇　表現に困っている児童には個別指導を行い、緩衝材の特徴やつなげ方を確認したり友人の表現方法を参考にしてもよいことを伝えたりする。	イ ①　◎ （活動の様子の観察、対話、作品） ア ②　○ （活動の様子の観察、対話、作品）
まとめ10分	③　活動の振り返り ・　教室全体を回りつくったものを鑑賞する。 ・　代表の児童が、緩衝材のよさを生かしてどのような「いい感じの場所」になったかを発表する。 ・　感想を伝え合う。 〔予想される児童の反応〕 C　椅子と椅子の間をつないだら、部屋みたいになった。	◇　紙のつなげ方を工夫して、いつも見ている場所の様子がどのように変わったかについて、聞いたり認めたりする言葉掛けを行うことで、児童が自分達の活動を価値付けできるようにする。 ◇　いつも見ているものの形や様子がどのように変わっ	イ ②　○ （活動の様子の観察、対話、作品） ウ ①　◎ （活動の様子の観察、対話、発表）

	C　窓に貼っていったら、網目から外の光が見えてきれいだった。 ④　片付け	たか、という視点で鑑賞することを伝える。	

※　○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童・生徒の学習状況を把握し指導に生かす。
　　◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。

(3)　板書計画

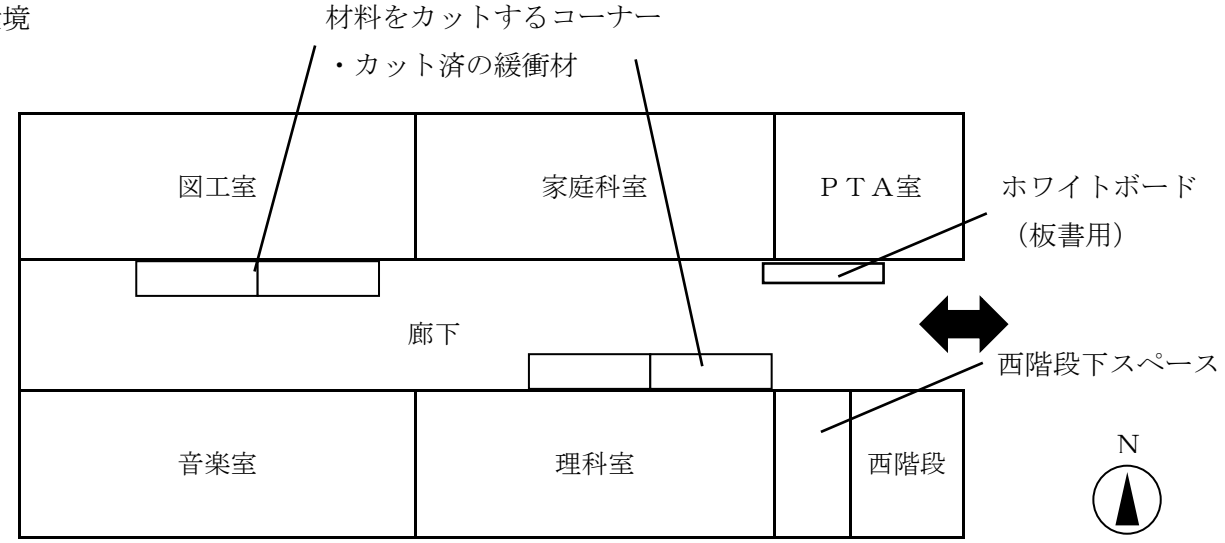
「つながる　アミアミ　いい感じ！」

アミアミのよさを生かしていろいろな場所にはったりつなげたりしながら、
「いい感じの場所」に変えよう。

※注意
走らない
いすの上に立つとき
→横にたおし、板がはられている面に立つ。

14:25～鑑賞・片付け

(4)　学習環境



(5)　授業観察の視点

ア　材料・用具・活動場所の選定は児童が工夫して活動し、思いを深めることに有効であったか。

イ　本時の導入の活動は、材料の特徴をつかみ、場所をどのように変化させていくのかという児童の思いを深めることに有効であったか。

ウ　児童が互いの良さを見付けながら自分の活動をよりよいものにしていくことに適切な学習環境になっていたか。